

## 2 指導の重点

### (1) 各教科、「特別の教科 道徳」、外国語活動、総合的な学習の時間、特別活動

#### ア 各教科

生徒一人一人に分かる喜びを味わわせながら学力を向上させる。そのために基礎的・基本的な内容を確実に身に付けさせるとともに、カリキュラム・マネジメントを行い、ICTや学校図書館の活用、体験的な学習活動を活用しながら、「考え抜く力（情報活用能力や言語能力など）」を育成する。数学科及び英語科の指導方法工夫改善加配教員を活用し習熟度別の授業において、個に応じた学習を行う。体力の向上についても、調査結果等を活用し、学習集団の構成や編制を工夫して、生徒が主体性を育み重視する授業を展開する。

#### イ 「特別の教科 道徳」

生徒に人としての生き方の自覚を促し、道徳性を養わせるために、保護者、地域など多様な人々との協働による学習活動を実施する。職場体験、自然スポーツ体験など、様々な体験的な学習活動の機会を充実させるとともに、要となる道徳科の授業においては、引き続き学習指導過程や発問内容を工夫して「考え、議論する道徳」を推進する。その際、道徳教育推進教師を中心に担任、副担任が協力して道徳教育を展開する。また保護者、地域と連携した道徳授業地区公開講座の実施により、道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度を育てる。道徳の指導内容が、いじめの防止など生徒の日常生活に生かされるようにする。

#### ウ 総合的な学習の時間

「ふるさと清瀬」を意識し、発達段階に応じて、探究的な学習を進める。

＜第1学年＞	＜第2学年＞	＜第3学年＞
“自己への理解”	“社会への理解”	“自己と社会との関わりへの理解”
ふるさと「清瀬」を通して	「東京」「上級学校」を通して	「日本」「世界」を通して

身の回りの環境や地域社会、福祉など、あるいはオリンピック・パラリンピックについて考えることを通して、生徒の課題意識を高め、主体的に判断し課題を解決する能力や態度を育てる。キャリア教育の視点から体験的な学習活動を体系化し、「赤ちゃんのチカラプロジェクト」や「認知症サポーター養成講座」等の実施、命の教育フォーラムへの参加など、「命の教育」を推進する。

#### エ 特別活動

学級活動や学校行事を通して集団の一員として自覚を高め、望ましい集団活動や協力する態度や思いやりの心を育てる。学校環境適応感尺度を活用し、よりの確に人間関係を把握し望ましい集団づくりを行う。生徒会活動を通して自主自立の精神を育成し、地域と連携したボランティア活動を通して公共心や社会性を育む。運動会や音楽祭などの学校行事を通じて集団の一員としての規範意識を高め、互いに支え合う態度を育てる。

### (2) 特色ある教育活動

キャリア教育を本校の特色ある教育活動の要とし、――

- ・コミュニティハウスの完成を契機として、地域との協働による教育活動の充実を図る。
- ・全教員がGIGAスクール構想に則ってICTの活用に習熟し、様々な学習活動に活用し応用することによって、主として生徒の「考え抜く力」を育成する。
- ・ICTと合わせ、学校図書館を情報センターとして活用し、探究的な学習を実践する。